

第 18 回 APRU マルチハザードシンポジウム「Advancing Frontiers in Disaster Risk Science, Technology and Policy」を開催しました（2023/11/29-30）

テーマ：国際連携、APRU、マルチハザード
場所：南洋工科大学（シンガポール）

2023 年 11 月 29 - 30 日の 2 日間にわたり、第 18 回 APRU マルチハザードシンポジウム「Advancing Frontiers in Disaster Risk Science, Technology and Policy」がシンガポールの南洋工科大学にて開催され、120 名以上が参加しました。当研究所からは、栗山進一所長・教授（災害公衆衛生学分野）、村尾修教授、泉貴子教授（以上 2 名、国際防災戦略研究分野）が出席しました。栗山所長は、開会式にて開会の挨拶をするとともに、「Equity in disaster risk analysis」と題する特別セッションにて、当研究所の「インクルーシブ防災」に関する取り組みについて発表しました。また村尾教授は、「Vulnerability and risk assessment」セッションにおいて、「Expansion of Tokyo Metropolitan Area since 1923 Great Kanto Earthquake」と題した発表をしました。泉教授は、開会式において、APRU マルチハザードプログラムディレクターとして Welcome remarks を述べるとともに、栗山所長と同じく「Equity in disaster risk analysis」の特別セッションの議論・意見交換に参加しました。このセッションは、2023 年 2 月にハワイ大学がホストしたワークショップ「Localizing disaster risk reduction in Asia and the Pacific」で行われた議論を継続する目的で開催されました。泉教授は、「Early Career Researcher Lightning Talk Competition」において審査員も務めています。

今年のシンポジウムは、6 つのテーマ（1. Climate Hazards、2. Tectonic Hazards、3. Public Health & Environmental Hazards、4. Economic Resilience: Finance & Risk、5. Strategies for Socioecological Resilience、6. Managing Risk）に沿って、セッションが開催されました。理系・文系を問わず、分野横断的な発表・議論が幅広く行われるとともに、発表の後には各セッション内でグループディスカッションが実施され、より深い議論も可能となりました。現在の地球課題を考慮した気候変動、マルチハザードリスクアセスメント、Nature-based solutions、リスク認知（Risk perception）なども多く取り上げられていました。また、当研究所が取り組む「インクルーシブ防災」についても、「Equity」という概念を加えて、アセスメントの段階で様々な角度や指標を考慮し、公平にリスクを分析しつつ、将来の防災に役立てるといった議論もありました。

2024 年のシンポジウムホスト大学は未定ですが、今後も新たな研究やその成果を発表し、海外の研究者とネットワークを構築できる場を、APRU マルチハザードプログラムとして提供していきたいと考えています。

文責：泉貴子（国際防災戦略研究分野）
（次頁へつづく）



栗山所長の発表



村尾教授の発表



泉教授の挨拶



南洋工科大学の Organizing committee と共に